

日時 令和4年2月25日(金) 13:30~15:00  
 会場 藤枝市役所 西館3階 第2・3委員会室  
 オンライン開催(一部、会場参集)  
 出席者 委員10名  
 事務局4名

議事・報告事項

(1) 藤枝市男女共同参画第4次行動計画(案)のパブリックコメント結果について

委員	本審議会での意見や市の考えがしっかり反映されていて良いと思う。
----	---------------------------------

(2) 令和4年度男女共同参画・多文化共生課の施策(案)について

委員	来年度、新規事業を盛り込んであるが、主に市民意識調査等が根拠になっていると考えてよいか。
事務局	市民意識調査はもとより第3次行動計画を策定する際に、今までに積みあがっていた課題等があり、各年度で必要な事業を判断して施策としたものである。
委員	「パパママ講座」は今年度1回の計画だったのですが、この講座は内容的にも良いと思う。積極的に男性にも育児に加わってもらうためにも、是非回数を増やしていただきたいと思う。
事務局	今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、1月に開催を予定していた分を中止としました。3月27日に延期になった分を開催する予定です。来年度は、3回の講座を開催予定です。
委員	3点あります。1点目、パパママ講座なのでパパと限定せず、子どもへの接し方や褒め方、叱り方、子どもとの遊び方や、パパに粉ミルクのいれ方や授乳の仕方、あるいは料理の仕方など、パパに限定せずもっとパパママ両方を対象に回数も増やしていくのはどうか。 2点目、「性の多様性理解促進事業」ですが、これはとても良いことだと思う。今後、藤枝市では、パートナーシップ制度を取り入れる予定か伺う。また、宣誓受領証を発行したら、他市でも連携して使える制度や予定が今後あるかどうかを併せて伺う。 3点目、男性のための相談事業は電話相談だけです。電話となると匿名であったり顔が見えないだけに、いろいろ難しいところがあります。一度始めたら簡単にやめることはできないため、電話相談でやるか対面式でやっていくか、いろいろ検討されたほうがいいと思う。
事務局	1点目、パパママ講座についてです。ママでも子どもの接し方がわからない人がいるとのことで、女性のための講座も、対象部局に実施の検討を投げかけていく。 2点目、県でも制度を今年度の秋ごろに向けて導入すると新聞で報道発表された。市独自よりも県域で導入をする方針を示されましたため、県の制度に乗っかる方向で準備を進めていく意見も出ており、模索しているところです。ただ、どちらにしても市民が利用しやすいサービスが一番身近なところになるよう、研究、調査も庁内で進めていく。 3点目、男性相談は、ご指摘の通り匿名という点もあって、相談内容が的を射ない内容があることも承知している。それを防ぐための目的として予約制という形で対応する。改善が必要な所は引き続き検討していく。
委員	パパママ講座をここ数年、男女共同参画・多文化共生課で実施していますが、市民から見ると、何故男女課でこの事業をやるのかと疑問に思うこともあり、図書課や教育委員会や児童課はどう対応されているのか。また、多文化共生事業にしても、とても良い事業ですが、藤枝市には国際友好協会もあり、関係団体とコラボレーションや協賛などもあり得るのではとか。藤枝女性防災ネットワークという女性が活躍する事業を危機管理課でやっています。たまたま私は男女共同参画の委員のひとりですが、藤枝市全体で、どんな女性の活躍や推進事業を他の課も含めてやっているのか把握ができません。できれば、藤枝市でそういった推進をしている事業を教えていただければありがたいと思っています。

事務局	<p>絵本の読み聞かせは、図書課との連携事業として実施している。国際友好協会との連携ですが、在住外国人が安心・安全に生活できるように国際友好協会のお力を借りて情報発信しており、ホームページへの掲載もご協力をいただいている。女性活躍推進事業ですが、産業振興部で女性の起業促進、企画政策課で女性の大学生や若い方の意見を市政に反映させるための取組を進めています。今後も庁内で連携を取りながら、女性活躍推進を図っていく。</p>
委員	<p>私の職場には中学生が職場体験として毎年来て来ています。5人ぐらいですが、いつも男の子も女の子も同じくらいで、保育園、職場保育士という職場に憧れて来てくれるのかなと思います。いつも楽しみにしています。ふれ性別に捉われない職業選択を学べるふれあい事業は良い事業であるので今後も続けて行ってほしい。また、情報誌らんらんは、大学生の座談会の内容が掲載されています。記入の名前が、女の人はオレンジ、男の人は緑と色分けされているのは何となく良くないのではと考えます。</p>
事務局	<p>今回作成した「らんらん」は、今回のこちらの意図として、やはり男女としての意見の違いを際立たせたいということがございまして、あえて議論を呼ぶことを承知の上でこのような記載をさせていただいた。ご理解いただけますよう、また表記は常に私どもも気を遣って情報誌を作成していきたいと思っている。</p>
委員	<p>推進事業所の認定の記事を広報ふじえだなどで拝見すると、この会議に参加している者としてはすごく嬉しい。この事業所の認定で、その事業所で何がどう変わったのか、それが市民になかなか見えてこないため、何かの形で見えるようにしてはどうか。</p>
事務局	<p>市でも引き続き認定制度を続けていくとともに、市内の事業所の方々に、この制度の趣旨を理解していただけるような掘り下げたPRを研究したいと思います。</p>